

# 長谷川 竹南（はせがわ・ちくなん）

## 1、プロフィール

本名は長谷川虎次郎。竹南は号である。東奥義塾在学中から文章をよくし、大正10年10月に東奥日報社に入り、印刷部に勤務。のち論説委員に転じ、社説の執筆に専念した。

<生没>

1874(明治7)年 ~ 1944(昭和19)年

<代表作>

エッセイ集『思ふがまゝ』『竹南文集』『菊池九郎先生小伝』

<青森との関わり>

弘前に生まれる。南津軽郡藤崎小学校教員から、会社・銀行勤務を経て東奥日報社に入る。取締役を一期務めた。

## 2、作家解説

本名は長谷川虎次郎(旧性、永井)。弘前に生まれ、東奥義塾高校を卒業して、10数年間南郡の藤崎小学校で教鞭をとる。のち実業畑に転じ、秋田県小坂鉱山、藤崎銀行、藤崎物産会社などに勤務した。

大正10年10月東奥日報社に入り、初め印刷部に勤務した。のち臨時事業局出版部長、調査部長を経て論説委員となり、社説の執筆に専念した。在職中取締役を一期務めた。

竹南は東奥義塾在学中から文章をよくし、12年12月、それまで「東奥日報」「弘前新聞」等に発表した論文や随筆を集めて、『竹南文集』を出版。昭和9年には、還暦を記念して、『思ふがまゝ』(第一編)を、12年12月には同第二編を発行した。

詩の他編著に『菊池九郎先生小伝』がある。

### 3、資料紹介

○『思ふがまゝ』(第二編)

図書

1937(昭和 12)年6月 20 日

188mm×125mm

自らの還暦を記念して発行した『思ふがまゝ』の第二編である。身辺雑記のほか人物評伝が多くを占める。畏敬する徳富蘇峰の伝記・紹介を収める。